

・・・新刊本紹介・・・

請求記号	本の名前	書いた人	出版者
210ト	もういちど読む山川近現代史	鳥海靖	山川出版社
302コ	金正恩を誰が操っているのか	五味洋治	徳間書店
314イ	ネット選挙のすべて	飯田泰士	明石書店
319エ	朝鮮を愛し、朝鮮に愛された日本人	江宮隆之	祥伝社
324ユ	相続はこうしてやりなさい	チェスター	ダイヤモンド社
367ヱ	「モラル・ハラスメント」のすべて	本田りえ ほか	講談社
369イ	実感！無駄な力がぬけてラクになる介護術	石井ゆりこ	誠文堂新光社
369ス	「買い物難民」をなくせ！	杉田聡	中央公論新社
378ス	発達障害親子支援ガイドブック	杉村省吾 ほか	昭和堂
421シ	時間とは何か 心理学的な時間から相対性理論まで		ニュートンプレス
440チ	ぼくが宇宙人をさがす理由	鳴沢真也	旬報社
492シ	病気のなり方おしえます	下条茂	エヌ・ティー・エス
493イ	子どもをゲーム依存症から救う精神科医の治療法	岩崎正人	データハウス
493ク	男性ホルモンの力を引き出す秘訣	秋下雅弘	大泉書店
495ス	スーパー図解女性の頻尿・尿失禁	高橋悟	法研
526コ	一生に一度は泊まってみよう！奇想天外ホテル	ディミトリス・コッタス	エクスナレッジ
538ク	宇宙へ「出張」してきます 古川聡のISS勤務167日	古川聡 ほか	毎日新聞社
592チ	DIYで作る可愛い収納家具		主婦と生活社
596ス	はさみでチョキチョキごはん	祐成陽子	主婦の友社
596ヒ	冷やしシャリッ！凍らせレシピ	チーム凍らせレシピ	メディアファクトリー
629ハ	花も実もあるよ！緑のカーテン	サカタのタネ「緑のカーテン」普及チーム	農山漁村文化協会
673ク	接客サービスの基本が驚くほど身につく本	福原裕一	学研パブリッシング
779ト	東大式タネなし手品	東京大学奇術愛好会	主婦の友社
779チ	演じてみよう！つくってみよう紙芝居	長野ヒデ子 ほか	石風社
781イ	関節ほぐしストレッチ 腰痛・肩コリに効く！	池田佐和子	主婦と生活社
783チ	サッカースターの少年時代		学研パブリッシング
788ク	横綱	武田葉月	講談社
911ク	こころ	谷川俊太郎	朝日新聞出版
914ハ	美女と呼ばないで	林真理子	マガジンハウス
F1	あなたにだけわかること	井上荒野	講談社
F1	バスを待って	石田千	小学館
F1	家族写真	萩原浩	講談社
F1	いつも彼らはどこかに	小川洋子	新潮社
F1	殺生伝 疾風の少年	神永学	幻冬舎
F7	てのひらに爆弾を	黒武洋	幻冬舎
F1	海商、会津屋八右衛門	小寺雅夫	文芸社
F1	天佑なり 高橋是清・百年前の日本国債 上・下	幸田真音	角川書店
F4	桜庭一樹短編集	桜庭一樹	文芸春秋
F5	きみの町で	重松清	朝日新聞社
F5	正義をふりかざす君へ	真保裕一	徳間書店
F7	聖痕	筒井康隆	新潮社
F7	島はぼくらと	辻村深月	講談社
F1	暦物語	西尾維新	講談社
F7	ドミノ倒し	貫井徳郎	東京創元社
F8	ときぐすり	梶中恵	文芸春秋
F8	ソウルメイト	馳星周	集英社
F8	色	花村万月	文芸春秋
F8	青い花	辺見庸	角川書店
F4	史上最強の大臣	室積光	小学館
F4	逆転の魔女	楊逸	文芸春秋
R210ニ	日本古代木簡字典	国立文化財機構奈良文化財研究所	八木書店古書出版部
S319ク	独島中毒 韓国人の異常な愛情	高月靖	文芸春秋

紹介しているのは6月に入った新刊の一部です。他にもたくさんありましたのでチェックしてみてください。

図書館にない本が読みたいときには、リクエストをしてください。他の図書館から借りるか、購入してお届けします。

読まんかね

2013.7 Vol.98

隠岐の島町図書館

〒685-0014
島根県隠岐郡隠岐の島町西町吉田の二 17-1
tel: 08512-2-2341 fax: 08512-2-9198
http://www.town.okinoshima.shimane.jp/toshokan/
e-mail: s-tosho@mx.miracle.ne.jp



テレサさんと英語であそぼう！！

オーストラリアから来た国際交流員のテレサさんと、英語のゲームや絵本を楽しみましょう♪
もちろん英語がわからなくても、だいじょうぶ！！
参加費・申込はいりません。みんなきてね！

対象：4・5歳～小学校低学年くらいまで。

第1回 7月28日(日) 14:30～
第2回 8月25日(日) 14:30～
場所：図書館研修室



・・・隠岐アゴラ開催中・・・

あなたのお気に入りの一冊を人に紹介してみませんか？
聞くだけの方も歓迎です。みんなで楽しくおしゃべりしましょう。高校生から参加できます。

第11回
7月20日(土) 14時～16時頃
第12回
8月10日(土) 14時～16時頃



・・読書感想文の課題図書入りました・・

もうすぐ夏休みですね。図書館では、第59回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書を揃えました。小学校低学年・中学年・高学年向け各4冊、中学校向け3冊、高校向け3冊です。

たくさんの方が借りられるよう、返却期限を守って借りて下さい。

もちろん、図書館にはこれ以外にもたくさん面白い本があります。ぜひあなたの一冊を探して感想を書いてみてください。図書館の職員におすすめの本を聞いてもいいですよ。



本は期限内にお返しください

図書館の本や雑誌の貸出期間は借りた日から3週間（視聴覚資料は1週間）です。

この度、隠岐の島町図書館利用制限等実施要綱の施行により、返却期限日より60日を過ぎても返却されない資料があると、その資料を返すまで（紛失・破損された場合は弁償が終わるまで）、新たな貸出・予約等ができなくなりました。

図書館の資料は町民全体の財産です。その本を次に読むのを楽しみに待っている人のために、ルールを守って気持ちよく使いましょう。



新着図書コーナーの前で特集をしています。

寄贈ありがとうございました

4月～6月には、藤野晴美様、日野雅之様、住田洋子様、吉野美桜子様、隼田法子様、船田俊二様、石橋雄一様、斎藤澄夫様、福井正八様、ほか10名の方々から、本を寄贈していただきました。

大切に活用させていただきます。ありがとうございました。



開館日カレンダー

■色の日は休館日

7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

定例行事

- はじめてのえほん 毎週火曜日 10:30～
- おはなしのへや 毎週土曜日 15:00～
- ブックトークの会 8月3日(土)14:00～

・・・展示コーナー & 特集コーナー・・・

★特集コーナー

★えほんコーナー

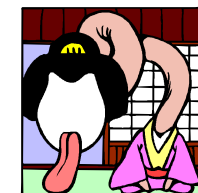
《夏バテに負けるな》

夏の暑さから体調不良にならないために、心身ともに強いカラダを手に入れましょう！元気になる食事の本や体を鍛える本などを集めました。



《おばけ》

あつ～い夏、怖いおはなしを読めば涼しくなるかも？怖かったり、ちょっとおかしかったりするおばけの特集です。



・・・6月の利用状況報告・・・

	入館者数	貸出人数	貸出冊数	登録者数
25年度	5,162	1,499	7,675	19
24年度	5,401	1,564	7,872	27
比較	▲239	▲65	▲197	▲8

・・・6月によく読まれた本ベスト10・・・

1位 神と語って夢ならず	松本侑子	光文社
1位 雅姫のインテリアスタイル	雅姫	集英社
3位 幕末の悲劇の会津藩主 松平容保	網淵謙錠ほか	中経出版
3位 クローズアップ	今野敏	集英社
3位 愛に乱暴	吉田修一	新潮社
3位 歳月がくれるもの	田辺聖子	世界文化社
3位 きみの町で	重松清	朝日新聞社
3位 もういちど読む山川近代史	鳥海靖	山川出版社
3位 知らない恥をかく世界の大大問題4	池上彰	角川マガジンス
3位 一生使えるファッションノート	植村さとる	ポプラ社

・・・図書館職員オススメの一冊・・・

『交響曲第一番 闇の中の小さな光』 佐村河内 守 || 著 幻冬舎



今月は藤原が紹介します！

佐村河内守さんといえば、全聾（耳が聞こえない）の作曲家であり、「交響曲第1番 HIROSHIMA」を作曲した人としてご存知の方も多いかもかもしれません。その半生を綴った自伝です。

著者は、幼いころからひたすら音楽に没頭し、10歳の時に交響曲を書きたいと独学で勉強を始めます。しかし、17歳から起こるようになった偏頭痛の発作に始まり、衰えていく聴覚、耳鳴り、35歳での全聾、頭鳴症の発作、左薬指機能不全、抑うつ神経症…作曲どころか生きるのも辛いほどの苦痛が次々と襲ってきます。嘔吐・失禁・気絶するほどの発作の苦しみ、自分の曲すら聴けない絶望、そんな闇の中で一人の少女と出会い見つけた小さな光…。外の音が聞こえないだけでなく、気が狂いそうな脳内の轟音の中、闇の中でしか見つけられない真実の音＝「闇の音」を追い求め、曲を作りあげようとしています。

文章を通して伝わってくるのは、他のすべてを捨てても音楽を渴望する強い思い、執着です。絶望のなかで自分の運命と対峙して、自分には音楽しかないと思いつきながら前に進もうとする著者の姿に胸を打たれます。そして、もし今自分が同じような状況になったら、何かこのように拠り所とするものがあるだろうか、自分の生き方を反省させられました。